

## 平成 27 年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」

### (共同利用型) 成果報告

#### 「チェルノブイリ原発事故後に海外から寄せられた子育て支援をめぐって」

白村 直也

#### 研究概要

申請者は、昨年平成 26 年度に「チェルノブイリ原発事故後の民間医療支援活動と「異文化接触」というテーマで本共同利用研究に従事した。そして本年度は、昨年度の成果を①補強すると同時に、②様々な支援内容の中でも「子育て」に係る支援を中心に、一步踏み込んでその経験を把握することを目的とした。

①：昨年度の共同利用研究では、チェルノブイリ原発事故後に海外からの支援が多く寄せられた 1990 年代初期に焦点を絞り、現地の新聞「ソヴィエツカヤ ベラルーシ」に目を通し、注目記事を拾い上げることに多くの時間を割いた。時間に制限があったため、各新聞記事の内容を深く吟味しながら取捨選択することはできなかった。そのため、昨年 2 回目（2015 年 3 月）の訪問以降、持ち帰った記事を読み込み、整理する作業に従事していた。本年度の共同利用研究はその作業を踏まえ、前後の紙面に目を通すことから始まった。

②：海外からの支援が量的にピークを迎えた 1990 年代初期は事故から 4～5 年が経過しており、事故の何らかの影響を受けた子どもたちの間で、甲状腺がんの発症が多発したことがメディアなどで叫ばれた時期である。

そこで本研究においては、国際機関や個別の支援団体が活字化した、そうした子どもの「子育て」に係る支援の記録を掘りこすことに従事した。この点については既にインターネット上で公開されている記録もいくつかあるため、その記録を参考にしながら進めた。今後は今回の研究で得られた成果を整理しなおし、広く社会に公開していきたい。

今回の滞在を通じて北大スラブ・ユーラシア研究センターの原田さんや坂口さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。